

皆様、おはようございます。

このところ雷がゴロゴロと鳴り、突如激しい雨が降り、いよいよ本格的な梅雨に入ったなあと思います。日がどんどんと長くなっています。1か月間の梅雨の後、これから夏本番というわけですが、どんどんとこれからいよいよ日が長くなり続けるといひや、明後日の6月21日が夏至であって、それを境にこれからどんどんと日が短くなるという事は驚きです。昼の気温は30度にもなり、マスクも着用しておりますし、熱中症にかかりませんように、水分を度々お取りになり、ぜひご健康に留意頂きたいと思います。

先週はヨエル書の1章を読みました。

いなごの被害により、作物がことごとく荒らされ、食べる物が底をつき、神殿に捧げる、神様に出会うための供え物にも事欠くようになり、神様は祭司たちにこう命じられました。

「祭司たちよ、荒布を腰にまとい、泣き悲しめ。祭壇に仕える者たちよ、泣け。神に仕える者たちよ、来て、荒布をまとい、夜を過ごせ。素祭も灌祭も／あなたがたの神の家から退けられたからである。

あなたがたは断食を聖別し、聖会を召集し、長老たちを集め、国の民をことごとくあなたがたの神、主の家に集め、主に向かって叫べ。」

出エジプトの奇跡、10の奇跡と、紅海に乾いた地を現し、民をエジプトの騎兵から救い出された神様をすぐに忘れてモーセの帰りが遅いを見て、民は金の子牛を造って祈り求めるという、身勝手を行いました。私たち人間には神を神とすることのできない、本当に致命的な弱さと不従順を抱えています。

子の弱さと不従順のあり様、的外れの、罪のあり様をよくよく肝に銘じ、悔い改めて、断食し、聖会を開き、主に向かって叫び、祈り求めるべきことを教えられました。

2章の最初の所におきましても、依然としていなごが猛威を振るっています。

1 あなたがたはシオンで／ラッパを吹け。わが聖なる山で警報を吹きならせ。国の民はみな、ふるいわななけ。主の日が来るからである。それは近い。

2:2 これは暗く、薄暗い日、雲の群がるまっくらな日である。多くの強い民が／暗やみのようにもろもろの山をおおう。このようなことは昔からあったことがなく、後の代々の年にも再び起ることがないであろう。

2:3 火は彼らの前を焼き、炎は彼らの後に燃える。彼らのこない前には、地はエデンの園のようであるが、その去った後は荒れ果てた野のようになる。これをのがれうるものはない。

2:4 そのかたちは馬のかたちのようであり、その走るとは軍馬のようである。

2:5 山の頂でとびおどる音は、戦車のとどろくようである。また刈り株を焼く火の炎の音

のようであり、戦いの備えをした強い軍隊のようである。

2:6 その前にもろもろの民はなやみ、すべての顔は色を失う。

2:7 彼らは勇士のように走り、兵士のように城壁によじ登る。彼らはおのおの自分の道を進んで行って、その道を踏みはずさない。

2:8 彼らは互におしあわず、おのおのその道を進み行く。彼らは武器の中にとびこんでも、身をそこなわない。

2:9 彼らは町にとび入り、城壁の上を走り、家々によじ登り、盗びとのように窓からはいる。

1章では作物を荒らし回っていたいなごは、その数を増やして空を暗くし、戦車のような轟音を挙げて動き、「町にとび入り、城壁の上を走り、家々によじ登り、盗びとのように窓からはい」り、人々に直接に挑みかかります。

2:10 地は彼らの前におののき、天はふるい、日も月も暗くなり、星はその光を失う。

2:11 主はその軍勢の前で声をあげられる。その軍隊は非常に多いからである。そのみ言葉をなし遂げる者は強い。主の日は大いにして、はなはだ恐ろしいゆえ、だれがこれに耐えることができよう。

人の背きの罪のゆえに天変地異が起こり、見たことも聞いたこともないような未曾有のことが起こるとき、絶えることも出来ずに人がその状況の前にくずおれる時、それが私たちが主を畏れる時です。

2:12 主は言われる、「今からでも、あなたがたは心をつくし、断食と嘆きと、悲しみとをもってわたしに帰れ。

2:13 あなたがたは衣服ではなく、心を裂け」。あなたがたの神、主に帰れ。主は恵みあり、あわれみあり、怒ることがおそく、いつくしみが豊かで、災を思いかえされるからである。

2:14 神があるいは立ち返り、思いかえして祝福をその後に残し、素祭と灌祭とを／あなたがたの神、主にささげさせられる事はないと／だれが知るだろうか。

(新共同訳聖書)2:14 あるいは、主が思い直され／その後祝福を残し／あなたたちの神、主にささげる穀物とぶどう酒を／残してくださるかもしれない。

「わたしに帰れ」と主は語られます。心をつくし、断食と嘆きと、悲しみとをもって。あなたがたは衣服ではなく、心を裂けと主は語られます。

こんなにも徹底的に、作物をも城壁をも町をも家をも襲い掛かるもの、私たちの現実的な恐怖と恐れ、天変地異の中であって、私たちがなすべきことはここでも、主の向かって祈り求

めることであり、神様に帰ることであり、心をつくし、断食と嘆きと、悲しみとをもってわたしに帰り、衣服ではなく、心を裂くことであることを教えられます。

苦しみや災害や大きい時、私たちは意気をくじかれ何もすることが出来なくなりますが、この時は、私たちが神様のもとに再び立ち帰り、神様のもとに帰るべき時、心を尽くして、イスラエルの民が御言葉に導かれたように衣を裂いて悲しむばかりではなく、自らの心を切り裂かれて、心の底から神様に向かい合い、悲しみと嘆きとをもってこの時こそついに神様の前に、神様と向き合う時が与えられる、その出来事であるということが分かります。

あなたがたの神、主に帰れ。主は恵みあり、あわれみあり、怒ることがおそく、いつくしみが豊かで、災を思いかえされるからである。

2:14 神があるいは立ち返り、思いかえして祝福をその後に残し、素祭と灌祭とを／あなたがたの神、主にささげさせられる事はないと／だれが知るだろうか。

(新共同訳聖書)2:14 あるいは、主が思い直され／その後祝福を残し／あなたたちの神、主にささげる穀物とぶどう酒を／残してくださるかもしれない。

そうやって神様に立ち返る時、神様に向き直る時。

「主は恵みあり、あわれみあり、怒ることがおそく、いつくしみが豊かで、災を思いかえされる」と書いてあります。

主はもともと「恵みあり、あわれみあり、怒ることがおそく、いつくしみが豊か」なお方です。そのお方が先のような本当に熾烈な災いをもたらされるという事は、どんなにか主もお苦しみになられたことなのでしょう。

主は思い直され、祝福を与え、神様にささげて神様を求めて交わりに入りたいと願う人々の願いをどんなにか聞きたいと思っておられることなのでしょう。

2:15 シオンでラッパを吹きならせ。断食を聖別し、聖会を召集し、

2:16 民を集め、会衆を聖別し、老人たちを集め、幼な子、乳のみ子を集め、花婿をその家から呼びだし、花嫁をそのへやから呼びだせ。

2:17 主に仕える祭司たちは、廊と祭壇との間で泣いて言え、「主よ、あなたの民をゆるし、あなたの嗣業をもろもろの国民のうちに、そしりと笑い草にさせないでください。どうしてもろもろの国民に、『彼らの神はどこにいるのか』と／言わせてよいでしょうか」。

またも主は、民に断食と聖会を求められます。

そこで祭司は泣いて祈ります。

「主よ、あなたの民をゆるし、あなたの嗣業をもろもろの国民のうちに、そしりと笑い草にさせないでください。どうしてもろもろの国民に、『彼らの神はどこにいるのか』と／言わ

せてよいでしょうか」

主の民は自身の頼みの綱である神様をいともたやすく捨て、その結果神様の教えのさばきの中であって無力なものとなり、そのゆえに諸国の間からそしりを受け笑い草になっていました。「彼らの神はどこにいるのか」、どこにもいないではないかと笑われていました。しかしこれは神様に責任があることではなくて、神様に祈り叫び求めることをやめてしまった人の側に責任のあることなのです。

しかし神様はその時にこのように思っておられました。

2:18 その時主は自分の地のために、ねたみを起し、その民をあわれまれた。

愛する人が自分から離れて誰か別の人と仲良くなっているのを見て嫉妬の心を持つ恋人のように夫婦のように神様は、ご自分の民のゆえにねたみの気持ちを持ち、また愛する者が嘲られ、そしりを受け、笑い草となり、あなたを守ってくれる神なんていないのでしょうと語られるその言葉に愛の炎を燃やしてねたみ、助け出してくださるという事がここに記してあります。

2:19 主は答えて、その民に言われた、「見よ、わたしは穀物と新しい酒と油とを／あなたがたに送る。あなたがたはこれを食べ飽きるであろう。わたしは重ねてあなたがたに／もろもろの国民のうちでそしりを受けさせない。

2:20 わたしは北から来る者をあなたがたから遠ざけ、これをかわいた荒れ地に追いやり、その前の者を東の海に、その後の者を西の海に追いやる。その臭いにおいは起り、その悪しきにおいは上る。これは大いなる事をしたからである。

2:21 地よ恐るな、喜び楽しめ、主は大いなる事を行われたからである。

2:22 野のもろもろの獣よ、恐るな。荒野の牧草はもえいで、木はその実を結び、いちじくの木とぶどうの木とは豊かに実る。

2:23 シオンの子らよ、あなたがたの神、主によって喜び楽しめ。主はあなたがたを義とするために秋の雨を賜い、またあなたがたのために豊かに雨を降らせ、前のように、秋の雨と春の雨とを降らせられる。

2:24 打ち場は穀物で満ち、石がめは新しい酒と油とであふれる。

2:25 わたしがあなたがたに送った大軍、すなわち群がるいなご、とびいなご、滅ぼすいなご、かみ食らういなごの食った年を／わたしはあなたがたに償う。

2:26 あなたがたは、じゅうぶん食べて飽き、あなたがたに不思議なわざをなされた／あなたがたの神、主のみ名をほめたたえる。わが民は永遠にはずかしめられることがない。

2:27 あなたがたはイスラエルのうちに／わたしのいることを知り、主なるわたしがあなたがたの神であって、ほかにないことを知る。わが民は永遠にはずかしめられることがない。

そしてこの悔い改めと回復の時を経由して、かの御言葉が語られます。

2:28 その後わたしはわが霊を／すべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、あなたがたの老人たちは夢を見、あなたがたの若者たちは幻を見る。

2:29 その日わたしはまた／わが霊をしもべ、はしために注ぐ。

2:30 わたしはまた、天と地とにしるしを示す。すなわち血と、火と、煙の柱とがあるであろう。

2:31 主の大いなる恐るべき日が来る前に、日は暗く、月は血に変わる。

2:32 すべて主の名を呼ぶ者は救われる。それは主が言われたように、シオンの山とエルサレムとに、のがれる者があるからである。その残った者のうちに、主のお召しになる者がある。

ペテロは「終わりの日」としてこのヨエル書を引用しましたが、「その日」、それは民の心が神様から遠く離れ、血と、火と、煙の柱とが現れ、滅びの押し迫る時。主の大いなる恐るべき日が来る前に、日は暗く、月は血に変わる、天変地異の日。

それでもなお、主の御名を呼ぶ者は救われる。

2:12 主は言われる、「今からでも、あなたがたは心をつくし、断食と嘆きと、悲しみとをもってわたしに帰れ。

2:13 あなたがたは衣服ではなく、心を裂け」。あなたがたの神、主に帰れ。主は恵みあり、あわれみあり、怒ることがおそく、いつくしみが豊かで、災を思いかえされるからである。

この神様に向かって立ち帰り、素直に主に祈り続けたいと願います。

2:21 地よ恐るな、喜び楽しめ、主は大いなる事を行われたからである。

2:23 シオンの子らよ、あなたがたの神、主によって喜び楽しめ。主はあなたがたを義とするために秋の雨を賜い、またあなたがたのために豊かに雨を降らせ、前のように、秋の雨と春の雨とを降らせられる。

2:26 あなたがたは、じゅうぶん食べて飽き、あなたがたに不思議なわざをなされた／あなたがたの神、主のみ名をほめたたえる。わが民は永遠にはずかしめられることがない。

2:27 あなたがたはイスラエルのうちに／わたしのいることを知り、主なるわたしがあなたがたの神であって、ほかにないことを知る。わが民は永遠にはずかしめられることがない。

この神様の徹底した恵みとお守り、私たちへの妬む愛、透徹した、揺れ動きもしない愛を知り、心新たに主の名を呼び求め、進みたいと願います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。闇と暗黒の日、雲と濃霧の日、私たちの苦しみの時、終わりの時、主の促しの言葉に従い、心を裂き、主に立ち帰り、悔い改める時、私たちへの災いを悔い、思い直され、祝福を施してくださいますことをありがとうございます。私たちのうちに主がおられ、あなたが神として民を守り抜いてくださることを知るようになさいますからありがとうございます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン